認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター

やまゆりニュース vol.39

令和4年度 麻生区地域課題対応事業
令和5年2月1日発行

2023 2

麻生市民交流館やまゆり

麻生区区制40周年記念「冠」事業

若い層にもウイングを広げたい

「やまゆり」、未来への課題

楽芸会でゴスペル熱唱

アートフェスタに子どもも

昨秋、久しぶりに「麻生市民交流館やまゆり」で「あさお市民活動サポートセンター」主催のイベントを相次いで開いた時、何より嬉しかったのは、幅広い年齢層の人々が参加してくれたことでした。

「やまゆり楽芸会」の参加者には、20代、30代、40代といった若い層がそれなりに含まれていました。ふだん、「やまゆり」ではあまり出会わない年代層です。彼らの参加は新鮮な風を吹き込んでくれました。

「アートフェスタやまゆり」でも、出展グループの中に若い顔が交じっていました。多くの絵画が並んだ中で最も注目を集めたのは、30代の描き手の作品でした。若々しい感性に、多くの目を引きつける力があったのでしょう。

「やまゆり」のふだんの主役は、60代から80代のシニア層です。豊かな人生経験と自由な時間とを併せ持つシニアの能力を役立て、生かすことこそが「やまゆり」の存在価値なのです。ただ、同じ年代層による活動ばかりでは活気は生まれません。若い層との触れ合いは必須。となれば、ぜひ「やまゆり」にも若い世代を呼び込みたいところです。といって、仕事が忙しい20代から40代をすぐに集めるのは難しいでしょうから、まずは、50代後半から60代前半の「若手」にウイングを広げていくのが、いま取り組むべき課題ではないでしょうか。

二つのイベントが好評だったのは、幅広い年代層が溶け合っていたから。「やまゆり」の未来も、まさしくそこにポイントがあるようです。

やまゆりニュース vol.38 目次

2面 A 麻生の進展(3/3) 選ばれる街に。ことに若い世代を中心に
S 知っていますか 川崎市は特別自治市を目指す
3面 A Amusement 区民に愛されるエンタメの場所に
O お役立ち情報 ニードカフェ―コロナをこえてつながる認知症カフェ―
4面 区民講師公開講座 参加者募集

2022年10/5 寄付をいただきました

利用団体のウェンズ会から寄付

ウェンズ会は2007年に発足して活発に活動していたが、会員の高齢化に伴い9月で解散しました。会費の剰余金24,901円を認定NPO法人あさお市民活動サポートセンターに寄付していただきました。ありがとうございました。

ウェンズ会から理事長に寄付

区民記者　神澤秀夫　　麻生の進展（3回シリーズ・3回目）　A

選ばれる街に。ことに若い世代を中心に

新百合ヶ丘地域は〝しんゆり〟の愛称を得て、商業・住宅地域とともに、文化・芸術の街としてのブランドを築き上げてきている。2030年には、地下鉄（横浜市高速鉄道3号線）が、あざみ野から新百合ヶ丘まで延伸されてくる。

川崎市では昨年12月、「『都市計画区域の整備、開発及び保全の方針』等の見直しの基本的考え方（案）」をまとめ、公開、「広域調和型のまちづくりの推進」として「新百合ヶ丘駅周辺地区」について記している。パブリックコメントを受けて見直し、23年に公表、24年度に、見直しに向け、都市計画手続きを進めていく予定、としている。

昨年秋、川崎新都心街づくり財団は、麻生区を対象とした郊外地域社会の実態と課題を明らかにする研究報告書を完成、11月、三瓶清美麻生区長への贈呈式が行われた。その中で、三瓶区長は「麻生区を選ばれるまちにして、若い世代を中心とした転入者を増やしていかなければ」と語ったと、㈱エリアブレインが発行する「マイタウン」（22年12月特別号）が取り上げている。

同社代表取締役の岩倉宏司氏はこう語る。「厳しい言い方になりますが、この新百合地区は、すでに経年劣化が始まっています。昨年、麻生区誕生40周年、商業施設のエルミロードは創業30周年、イオンスタイル、オーパはともに創業25周年を迎えました。そして当時、ここ新百合に来られた方の年齢も相当高くなっています。三瓶区長が言われるように、街全体において若い世代にチェンジしていかなくてはならない。地下鉄の延伸は、その意味でもチャンスです」

民間の、不動産、鉄道、大学など5者が幹事の新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムをはじめとする地域団体等と行政とが連携した、次世代につながる新百合ヶ丘の「街づくり」を期待したい。

広域調和型のまちづくりの推進

新百合ヶ丘駅周辺地区

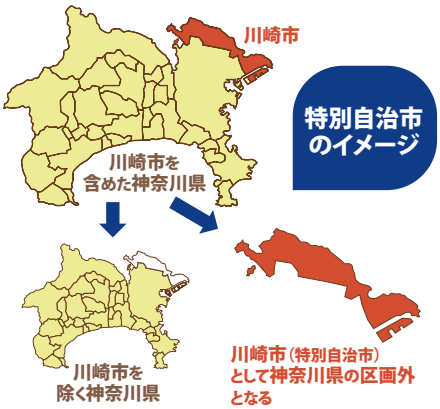
・駅南口：駅前広場における交通流の改善等を目的とした**駅前広場の再整備**／賑わい創出、魅力の向上に向けた、**駅周辺の公共空間を活用**したイベント等の取組の推進

・平成31（2019）年1月に**横浜市高速鉄道3号線延伸（あざみ野～新百合ヶ丘）**の事業化判断がされたことを受けた、駅周辺のまちづくりの検討の推進

豊かな自然環境や芸術・文化等の地域資源、充実した都市機能を活かした魅力ある拠点形成が求められています。また横浜市高速鉄道3号線延伸に伴う周辺環境等の変化を見据え、駅周辺の低未利用地等における土地利用転換の誘導と交通結節機能の強化に向けた取組の推進が求められています。

区民記者　中島久幸　　知っていますか　S

川崎市は特別自治市を目指す



自治会の回覧で川崎市が進める「特別自治市（以下、特別市という）に関する出前説明会」のチラシを見て興味がわき、少し調べてみた。

特別市とは、従来の道府県と市町村という2層構造を廃止し、行政のうち国防や司法、通商政策など国がおこなうべきものを除いた全てを担う都市のこと。特別市は道府県の区域外となり、市が道府県の機能をすべて持ち、権限と財源を一本化する制度である。

現在、全国に20の指定都市があるが、指定都市全体で法令改正の働きかけなど、特別市の実現を目指している。川崎市によると二重行政が解消され、無駄を省いた素早い対応が可能になるという。メリットとしては、次の4項目などといわれている。①窓口の一本化で行政サービスの利便性が向上し、子育て支援や雇用・労働支援の窓口が一本化されムダがなくなる②司令塔の一本化で迅速で実情に即して課題が解決され、素早い災害対応が可能になる③事務の効率化、組織の簡素化で経費が削減され、まちづくりでのムダ（都市計画での県の認可）がなくなる④地方税一元化により増収となり、少子高齢化、インフラ老朽化等の課題を解決するための財源が生まれるなど。

課題としては①地方自治法などの法改正が必要②防災、犯罪捜査など広域的な課題への対応の検討③県の財源不足による周辺自治体への影響と対策の考慮など。

現在、川崎市は、町内会、自治会、グループなどを対象に、30分から1時間程度の「特別市に関する出前説明会」を開いており、興味がある方は仲間を募って申し込まれたい。（連絡先：川崎市総務企画室　特別自治市推進担当　☎044-200-0057）

区民記者　佐々木直子　　Amusement　A

区民に愛されるエンタメの場所に

アートセンターには映画館と小劇場のほか録音室、研修室、工房もあり一般でも利用できる

2007年、新百合ヶ丘に誕生した「川崎市アートセンター」。昨年4月に就任された関敏秀館長(61)は生まれも育ちも多摩区、現在も菅に在住。川崎市職員として、長年市議や議会をサポートしながら、提案事業を行ったり、市民の声を政策に反映したり、市全体の行政に関わりを持ってきた。特に幸区長時代には、高校生と連携した公園の管理、小学生の声を区行政に取り込み、校庭開放や地域資源を活用したまちの魅力向上など、多くの地域住民を巻き込み、さまざまな地域課題を独特のアイデアで解決してきた。

館長に就任し、驚いたのは「川崎市アートセンター」の知名度の低さ。麻生区には音楽や芸術に造詣が深い人が多く、音大や映画大学があることで、それらに触れる機会も多い。それでも、「アートセンターに行ったことがない」「何の施設か知らない」という区民も少なくない。

昨年10月、15周年を迎えたアートセンター。関館長が目指すのは、自由に、楽しく、住民同士が交流できる場として、発表できる舞台として、気軽に使ってもらうこと。「エンターテインメントの生まれる場所として、来てもらい、知ってもらい、利用してもらうことでもっと親しんでもらいたい」と語る。地元のアーティスト、自治会や町内会、芸術家の卵、子どもたちなどポテンシャルが高い住民をいかに巻き込むか。市内各所で多くの種を蒔いてきた関館長。ここ、麻生区でどんな種を蒔き、どんな花を咲かせてくれるのか、楽しみだ。

「自分が楽しまないと、周りも楽しめない」が持論の関さん

区民記者　仲原照男　　お役立ち情報　O

ニードカフェ―コロナをこえてつながる認知症カフェ―

ニードカフェのチラシです。定員なし、参加無料(通信費自己負担)です

ニードカフェは、インターネット(以下「ネット」という)によって開催される認知症カフェである。2020年、セカンドラップ(デイサービス施設)の協力やかわさき記念病院の専門家、そのほか支援団体関係者の方々の参加も得て、毎月第2土曜日(なのでニードカフェ)に対面ではじまった。が、ほどなくコロナのため施設の利用も、対面での開催もできなくなった。

カフェを続けるか、それとも休止か。主催者の人たちが選んだのは、苦労はあるだろうけれど、ネットやメールでも「つながる」ことは欠かせないと、ネットによる開催継続だった。実際、はじめのころはネットの接続が大変で、参加希望者宅に出向いて手伝ったりしたが、それでも2～3人しか参加者がいないこともあったそうだ。

そんな苦労をのりこえ、最近は麻生区内だけでなく遠方からの参加者もふえた。また、参加は難しいけれど、実施されたカフェの様子、地域の情報などを知りたいと、送信先のメールアドレスを登録している人も30人を超えるまでになった。

参加者は、「多彩な情報をタイムリーに送ってもらえて、大変ありがたい。行政が一元的に情報提供してくれればもっと嬉しい」、「参加者の立場、話題が毎回違うため、毎回いろいろなことに気付かされとても参考になる」、「今後は認知症の方を囲む、多彩な人々の交流の場に発展してもいいのでは」などと語っていた。

ニードカフェ

連絡先：2docafeasao@gmail.com
(Zoomによるオンライン開催のみ)

設　立：2020年9月
会　員：33名(2023年1月1日現在)(登録者)
参加費：無料(通信料自己負担)
活動日：毎月第2土曜日 13時～15時

2023年 第13回 区民講師公開講座 参加者募集

受講料無料

2023年4月～6月、麻生交流館やまゆりで区民講師公開講座が開催されます。
1講座ごとに申し込むことができます。ぜひお気軽にご参加ください。

4月

受講受付：3月1日より

10日(月) 17:30

源氏物語の魅力を探る ～教育現場の経験から～

重要な名場面を取り上げて、現代語訳も併用して源氏物語の魅力を具体的に解説します。

講師 ： 鈴木 久仁夫

16日(日) 14:00

ウチ、断捨離しました！？

断捨離って何？捨てること？ではなくて・・・断捨離トレーナがお答えします。

講師 ： 田辺 佐保子

22日(土) 14:00

雑学　旧江戸城本丸跡

皇居東御苑の見所を裏話・エピソード等を交えながら、あたかも現地を歩いているかのように解説します。

講師 ： 森泉 誠

5月

受講受付：4月1日より

13日(土) 14:00

元NHK理科教室のお姉さんが伝える【心と身体の整え方】

「健康寿命」をのばすために、「最近の栄養学」や「人体の仕組み」を知ることで自分自身が見えてきます。

講師 ： 菅原 雅子

20日(土) 14:00

せっけんで家中ピカピカ大掃除！ ～せっけんで台所から地球温暖化ストップ～

食器洗いやお掃除に、環境にやさしいせっけんとその仲間たちを使って家中ピカピカにしましょう。

講師 ： 林 恵美

27日(土) 14:00

あなたの「好き」「想い」を活かして
「地域を元気に」そして、「あなた自身もハッピーに」なりませんか？

これまでの経験・ノウハウ・ネットワークなど、地域を元気にする10の「ヒント」を基にブレストしましょう。

講師 ： 葉倉 峰雄

6月

受講受付：5月1日より

3日(土) 10:00

楽しく笑って元気になる「健幸アップセミナー」

健康寿命延伸・介護予防のための姿勢改善、体力向上、転倒予防、認知機能の低下予防などを丁寧に指導します。

講師 ： 今川 貞治

12日(月) 10:00

植物がもたらす自然の香りとの共存

なぜ植物に香りがあり、どのような役割を持っているのかなどお伝えしていきます。日本の懐かしい和の香りの講座です。

講師 ： 金嶋 典子

18日(日) 14:00

ロコモ予防体操：真向法体操＋筋トレ

ロコモの原因と予防の理論を学習。足あげ、スクワットなど5種の動作だけで歩行能力を維持改善します。

講師 ： 長野 洋

申込方法

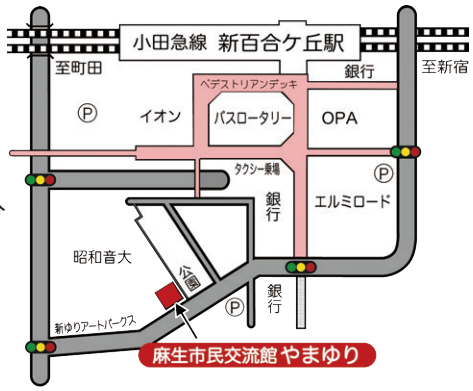
各講座の詳細は、それぞれのチラシをご参照ください。　開講月の1か月前までに公示されます。
受講受付は、開講月の前月1日からです。　先着順での受付で、定員になり次第締め切ります。
受講申込みは、チラシ裏面申込書に記入して、「やまゆり」窓口へご持参いただくか、FAXで提出して下さい。

お問い合わせ　☎ 044-951-6321　Fax. 044-951-6467

麻生市民交流館やまゆり

ホームページ更新中 ▶▶▶

開館日	月～金　9:30～17:00 平日の夜間　～20:15 ※土・日・祝日も予約をすれば利用可
休館日	年末年始、　施設点検日
アクセス	小田急線「新百合ヶ丘」駅南口から徒歩4分
住所	〒215-0021 川崎市麻生区上麻生1-11-5
TEL	044-951-6321



「やまゆりニュース」第39号　発行日：令和5年2月1日　発行元：認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター　Tel. 044-951-6321　Fax. 044-951-6467
編集長：中島久幸　　紙面デザイン：井上由佳子